

歴認研は十周年を迎えることができた。10月22日(木)午後2時半から東京の星陵会館で記念シンポジウムを開催する。ホームページをご覧ください。ここまでくることができたのはご支援をして下さった皆さまのおかげです。ありがとうございました。

この十年間、慰安婦問題、戦時労働者問題、佐渡金山ユネスコ世界遺産登録などで私どももそれなりの成果を挙げてきた、と自負している。日韓間の歴史戦はかなり良い方向に進んでいる。ただし、韓国李在明政権は歴史問題を外交化することは自制しているが、国内では慰安婦性奴隷説を否定する運動家金柄憲氏を、大統領が先頭に立って弾圧している。気鋭のジャーナリスト朴舜鍾氏が、詳しい報告を寄せてくれた。

今年3月、歴認研は韓国の歴史認識に関わる研修旅行を実施した。その一環として第1回日韓歴史認識会議を、韓国の真実勢力と開催した。非公開会議なので、本号では日本側の発表だけを掲載した。江崎氏、久保田氏の研修報告と共に読むと、日韓歴史戦の現状がよく分かる。

4月30日、韓国で歴史戦を戦う国民運動組織「新歴史国民運動」が発足した。共同代表は、李栄薫・前ソウル大学教授、柳錫春・前延世大学教授らだ。李氏らは、「歴史分野で左派勢力が構築した虚偽の体系を解体し、新しい体系の歴史を打ち立てる」ことが必要だとして、①光州を解放せよ、②韓国史教育を中断せよ、③李承晩、朴正熙両大統領の長期政権は正当だった、④自由台湾を守る国際戦争に参加する一という四つの綱領を掲げた。

①は、1980年に全斗煥政権が発足する過程で光州において起きた民主化デモと戒厳軍の衝突を、一方的に軍による虐殺だと断定し、その延長線上で、韓国建国過程における共産勢力による武力蜂起とその鎮圧も政権による虐殺だとする歴史観が、国の

正史とされていることへの告発だ。8月13日、国会図書館大講堂でそれをテーマに学術シンポジウムを開催した。ところが、同行事を共同主催した李眞淑議員に対して激しい非難が起き、8月26日、議員除名要求決議が国会で可決される騒動となっている。学問と言論の自由の危機だ。

綱領の④と関連して、李氏らは「中国が無謀にも(台湾に)戦争を起こすとすれば、それは韓国人が卑怯にもその戦争を対岸の火事とするだろうという判断に誘惑されてのことになる」と指摘。「韓国が参戦し台湾の自由と民主政治を守る一翼を担う意志を固く表明すれば、中国は台湾侵攻計画を放棄するだろう」と述べている。(西岡)

前号(第18号)の訂正等のお知らせ

回想記「青木晴夫少年が見た朝鮮の風景」に関して、解説を担当した鄭大均氏より、「群山李盛堂」に関する註2の記述(171頁)は取り消したい旨の御連絡がありました。

また、書評欄の中村恵子著『北方領土と開拓の魁』は、誤植がございましたので、以下のように訂正し、お詫び致します。

211頁上から2行目:「は器物資源循環学会」(誤)→「廃棄物資源循環学会」(正)

歴史認識問題研究

(年2回発行)

第19号(令和8年秋冬号)

発行日:2026年9月18日

発行人:西岡 力

編集人:勝岡 寛次

編集部:歴史認識問題研究会

頒 価:1,000円

発行所:〒277-0065 柏市光ヶ丘2丁目1番1号

公益財団法人モラロジー道德教育財団

西岡 力 研究室

Tel:04-7173-3197 Fax:04-7173-3199

印刷所:株式会社 長正社